

秋田赤十字乳児院へメロンとスイカを贈呈

8月5日(水)、秋田赤十字乳児院の乳幼児への育成支援の一環として、メロン「秋田美人」とスイカ「あきた夏丸チツチエ」を贈呈しました。当JAから同院への農産物の寄付は平成26年から毎年行っており、今回で7回目となりました。これまで「あきたこまち」やリンゴなどを贈り、今回は初めてメロンとスイカを贈呈しました。昨年までは贈呈式を開いて幼児へ農産物を手渡ししていましたが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、加藤貞吉専務が同院の職員へ手渡しました。加藤専務は「旬のメロンやスイカを味わって、元気に過ごしてほしい」と呼び掛けました。



子どもたちの健やかな成長を願って農産物を贈りました

JA秋田なまはげ会館周辺をクリーンアップ

8月7日(金)、JA秋田なまはげ会館(本店)の周辺で、本店職員がクリーンアップを行いました。

職員は建物の周囲や駐車場、歩道などで、それぞれ清掃活動に励みました。当日は降雨が心配されましたが、ごみ拾いをしたり雑草や苔を取り除いたりしたほか、側溝の蓋を外してきれいに清掃するなど、手際よく作業を進めました。

JA秋田なまはげ会館の周辺は、通勤や通学に利用する方や散歩をする地域の方が多く往来し、観光客が通りかかることも多い場所です。JAはこれからも、事業所や周辺の美化活動に努め、過ごしやすい地域環境づくりに励んでいきます。



駐車場を清掃する職員

NEWS & TOPICS

秋系821生産者説明会

秋田米新品種「秋系821」の、令和4年度のデビューに向けた取り組みが始まっています。

8月19日(水)に男鹿地区で、21日(金)には秋田地区で生産者を対象にした説明会が開かれ、96名が参加しました。県秋田米ブランド推進室や秋田地域振興局農業振興普及課から、作付けする生産者の要件、食味や品質を安定的に確保するための基準、品種の特性や今後のスケジュールなどが説明され、参加者は注意深く耳を傾けていました。

当JA管内では7月末日までに約150名の生産者から作付けの申し込みがあり、米の検査結果などをふまえて、冬に生産者登録が行われる予定です。



「秋系821」の特性などを確認しました

梨の出荷始まる

当JA管内の梨が収穫期を迎え、出荷が始まりました。天王梨選果場の稼働が始まった8月27日(木)には生産者から「幸水」376ケースが運び込まれ、作業員が選果や箱詰めめに汗を流しました。男鹿地区や追分地区でも30日(日)から出荷が始まっています。

出荷開始に先立って21日(金)に共販対策会議が開かれ、市場情勢や出荷計画を確認しました。25日(火)と28日(金)の目揃え会では、収穫適期の着色や等級の基準などを学びました。

「幸水」の出荷は9月上旬から中旬にかけてピークを迎え、その後は「豊水」や「南水」「かほり」や「秋泉」などが続きます。



適熟の基準を確認する生産者

